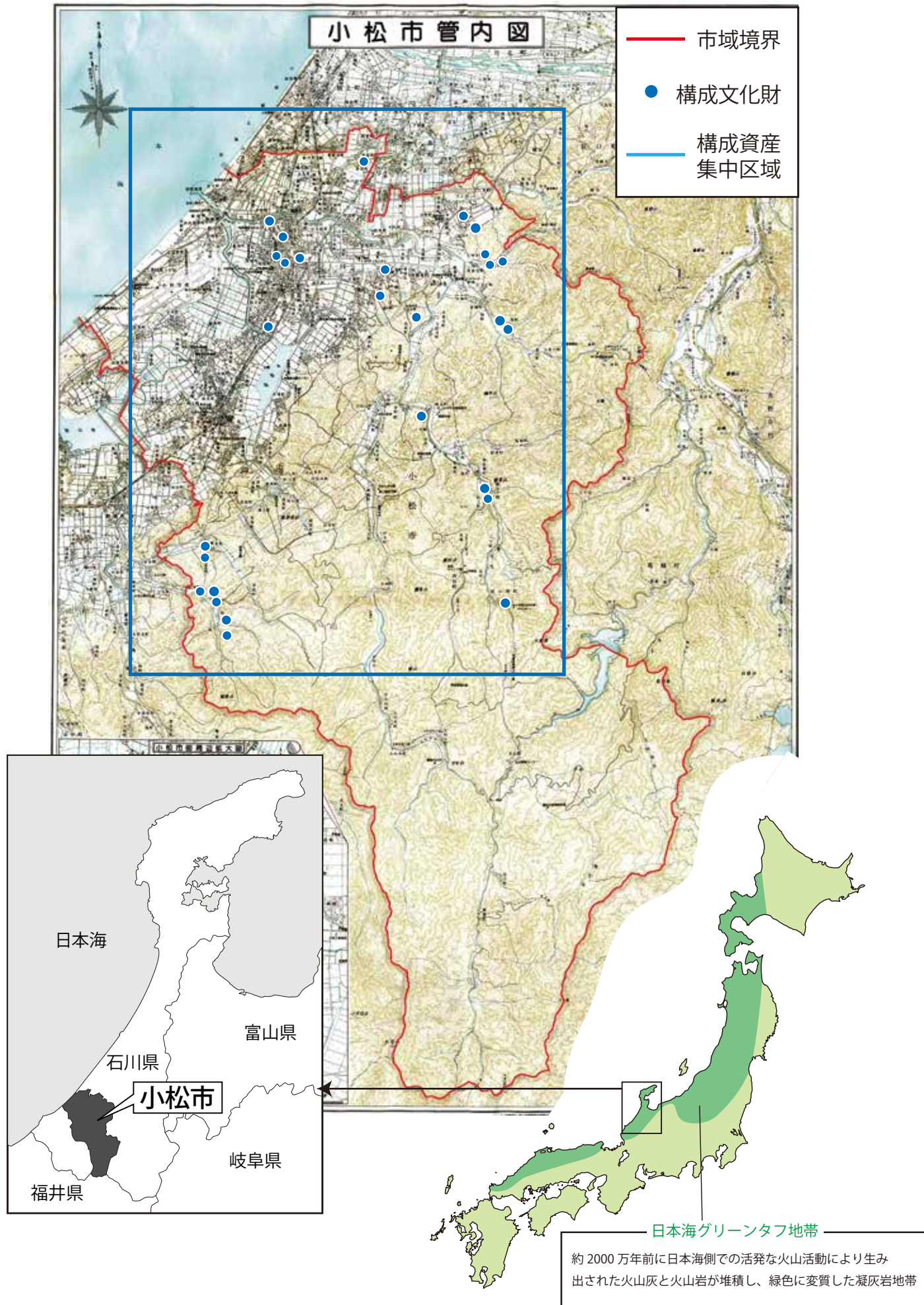


① 申請者	小松市	② タイプ	<div>地域型</div> / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
『 ^{しゅぎょく} 珠玉と歩む物語』小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>小松の人々は、弥生時代の^{へきぎょく}碧玉の玉づくりを始まりとして2300年にわたり、金や銅の鉱石、メノウ、オパール、水晶、碧玉の宝石群、良質の凝灰岩石材、九谷焼原石の陶石などの石の資源を見出し、時代のニーズに応じて、現代の技術をもってしても再現が困難な高度な加工技術を磨き上げ、ヤマト王権の諸王たちが権威の象徴として挙げて求めるなど、人・モノ・技術が交流する豊かな石の文化を築き上げてきている。</p>			
			
八日市地方遺跡の玉づくり		滝ヶ原石切り場（上） とアーチ型石橋（下）	
⑤担当者連絡先			
担当者氏名	小松市 経済観光文化部 文化創造課 課長 望月 精司 観光交流課 課長 横山 昭博		
電 話	(0761) 24-8076	FAX	(0761) 23-6404
E-mail	mochizuki@city.komatsu.lg.jp a-yoko@city.komatsu.lg.jp		
住 所	〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地		

市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（地図等）



● 石材・鉦物産地 ● 制作・工房関連地 ● 代表的石造建造物（市内に点在）

■ 天然記念物・風景地 ★ 構成文化財保管施設（文化財所在地設置の保管施設を除く）

ストーリー

弥生時代の王たちを魅了した小松の「碧玉」アクセサリ



八日市地方遺跡出土碧玉製管玉（国重要文化財）

今から2300年前の弥生時代、日本では自然や生命、権力への象徴として「緑」への憧れが強く、朝鮮半島から伝わった「緑の玉」の国産化を目指し、原石産地探しが始まる。良質で豊富な碧玉が採取できたのは小松を含め全国で4ヶ所に限られ、特に小松の碧玉は、きめ細かさと埋蔵量で他に秀でていた。小松の弥生人は、那谷・菩提・滝ヶ原で産出される碧玉を原料に、八日市地方で「玉づくり」を開始する。それまでの軟質の緑色凝灰岩による管玉製作から、硬質で加工が困難な碧玉での管玉製作を可能とする当時の最先端加工技術であり、小松で実現したその工程は碧玉を石鋸で方形柱に切断していき、砥石で擦って円柱に磨き上げたものを、太さ0.7mmのメノウ製石針で1mmの孔を開け、直径2mmの細くて精巧な管玉を作り上げるものであった。現代でも復刻困難な驚異的な加工技術によって作られた管玉は、糸魚川産ヒスイを加工した勾玉と組み合わせた首飾りや頭飾りとして、日本海沿岸交易を経て九州へと届けられ、弥生の王たちを魅了した。その後、八日市の玉づくり技術は、さらに東の碧玉産地へと伝わっていくのである。



直径2ミリの碧玉に石の針で1ミリの孔を開ける

古墳時代に日本を席卷する腕飾りの誕生と中世に花開いた「小松の凝灰岩文化」

古墳時代前期、ヤマトに強大な勢力が誕生し、新たに大型の装身具として石製の腕輪生産が始まると、加工しやすくきめ細かな石質を持つ小松の緑色凝灰岩が注目を集める。精巧な彫刻加工を施したデザイン性の高さに優れた鍬形石などの腕輪は、当時のヤマト王権の諸王がステータスシンボルとして挙げて求め、日本各地へと広まっていく。



河田山古墳群の横穴式石室

古墳時代後半には、新たに建築部材として石材の活用が始まる。小松市東部の里山には良質の凝灰岩が広範囲に分布し、これを切り出し加工する技術が小松へ導入され、大型古墳の横穴式石室に使用された。特に、河田山古墳群では、飛鳥時代のアーチ式天井を持つ切石積み横穴式石室が発見され、石積みのズレを防止する鍵手積み技法など国内最先端の石室構築技術を有していた。天井部がアーチ構造の横穴式石室は国内唯一であり、朝鮮半島の百済王墓との類似性から、大陸との繋がりの中で直接、小松に伝わったものと推察される。

古代まで、王の墓や国の建築物など、特別な建造物の建築部材利用が主であった切石技術は、中世に入ると鉄製の石工道具の進化と普及により、行火や囲炉裏、井戸枠、火鉢等の生活道具のほか、灯籠や石仏等の信仰具、五輪塔等の様々な石塔など、細かな細工を施す石造彫刻品の制作も活発となり、生活・信仰・文化に密着した石の利用が浸透していく。材質の堅牢さと耐火性、錆びない、腐らない石の素材特性は、庶民に広く受け入れられ、材料調達の手軽さもあり、小松の凝灰岩文化が花開いた時代であった。

利常公の城の整備とまちづくり、近世の石切り場開発

小松のまちづくりは、江戸初期に加賀前田家三代利常公が隠居し、小松に居を構えたことに始まる。利常公は加賀一向一揆の拠点城の小松城を大規模改修し、石垣で区画された城内には多くの水堀と島を配置する浮城の景観を持つ名城として生まれ変わらせた。利常公の城づくりへのこだわりは本丸櫓台の石垣にも表現されている。当期に新技法として定着し始めた「切込み接ぎ」を採用し、色調の異なる石材をランダムに配置するなどデザイン性豊かな石垣構築を



小松城本丸櫓台の石垣

行うとともに、城内や町家を区画する堀や河川の護岸、橋台にも使用されている。小松城の石垣は『前田家文書』に^{うがわ}鵜川石の記載があり、^{かけはしがわ}梯川流域に位置する鵜川地区に石切り場を設け、河川で城やまちなかへと運び込んだことがうかがえる。

利常公以降、近世のまちづくりが本格化する中、建築部材としての石材需要が高まり、市内では本格的な石切り場の開発が始まる。現在、確認される25ヶ所以上の石切り場の多くは当期に開かれ、色調や硬さなど細部の特質により使い分けがなされ、門や塀、土台の建築部材や庭の石造彫刻物、信仰用具、生活用具として利用され、石工技術が定着していく。

もう一つの石の物語「ジャパנקタニを生んだ陶石と地域経済を支えた豊かな鉱石・宝石群」

明治期に欧米でジャパנקタニと称賛された九谷焼には、江戸後期に花坂地区で発見された陶石が用いられている。この陶石もまた、地下の^{りゅうもんがん}流紋岩が熱水作用によって風化した産物であり、小松は全国有数の陶石産出地である。陶石粉碎から九谷焼陶土ができるまでの昔ながらの各工程が今も残り伝えられている。



昔ながらの技法を受け継ぐ九谷焼製土場

また、江戸後期から^{かなひら}金平や^{おごや}尾小屋、^{ゆうせんじ}遊泉寺で金・銅の採掘が確認され、注目を浴びる。特に明治期以降は、尾小屋、遊泉寺の鉱山で銅の産出量が拡大し、大正には全国有数の産出量を誇った。その財は小松だけでなく、明治維新後の加賀百万石の経済をも支えた。

そして、同時期、かつて碧玉で国内を席卷した菩提・那谷のメノウやオパール、そして遊泉寺の紫水晶は「加賀紫」として珍重され、海外への献上品や宝飾品として高く取引された。小松の石資源の豊かさは鉱石、宝石へと広がりを見せ、今でも産出地の個人宅の門塀や、開創1300年の古刹、^{なただら}那谷寺の白く露出した岩山には碧玉の層が見られるほか、境内の庭石や飛び石などに地元産出の様々な宝石群が使われ、市民生活の中に深く溶け込んだ町の姿を見ることができる。



碧玉の層も見られる那谷寺の奇岩遊仙境

現代に残る石の町並み



観音下石を使用した日本酒醸造の石蔵

近世に開かれた数多くの石切り場のうち、特に水に強く青白い色調が美しい滝ヶ原石や、温もりのある黄色の色調で湿気に強い^{かながそ}観音下石は、現在でも切り出しが行われる人気石材で、市内の建造物はもちろん、国会議事堂や甲子園会館など、数々の有名建築物に使われその魅力を伝えている。市内中心部を歩くと趣のある小松町家の町並みに多くの石蔵が残っている。小松町家に石蔵が定着した背景には、昭和初期の二度にわたる大火があった。大火で多くの家屋が焼失する中、耐火性に優れた凝

灰岩を壁に使った蔵の大半は焼け残ったことが石蔵を再認識するきっかけとなった。

また、滝ヶ原地区には、明治から昭和初期に築造されたアーチ型石橋が、かつて12橋存在し、今でも6橋残されている。現存する石橋が多数存在する地域は、九州以外では当地のみであり、地域が石とともに育んできた「石の里」の風景を今に残している。この滝ヶ原の旧の石切り場跡では、巨大な石塊を様々な石工道具で丹念に切り出した際の紋様が天井や壁に残り、洞窟を支える石柱と相まって幻想的な空間を醸成している。遊泉寺町や鵜川町の石切り場は、良質の石材を求め^{すいどう}隧道状に迷路のように掘り進められた姿が特徴的であり、特に遊泉寺の石切り場跡は、総延長10km、広さ8000㎡に及ぶ巨大地下空間となっており、随所に溜まった地下水が例えようもなく美しい光景を作り出している。



幻想的な石切り場跡（滝ヶ原）

このように、2300年にわたり、小松の人々は大地の恵みである石の資源を見出し、時代のニーズに応じて進化してきた様々な技術、知識を磨き上げ、人・モノ・技術が交流する豊かな石の文化を築き上げてきているのである。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	な た ぼだい 那谷・菩提・滝ヶ原 へきぎよく 碧玉産地	未指定 (天然記念物)	弥生時代の王たちを魅了した碧玉製管玉の原石産地。良質の緑色凝灰岩の産地でもあり、弥生時代から古墳時代にかけて、当地の地下資源が古代の装身具を支えた。	
②	ようかいちじかたいせき 八日市地方遺跡出土品	国重文 (考古資料)	弥生時代の王たちを魅了した碧玉製管玉、管玉加工途中の工程品、管玉製作工具などの一式が出土する玉づくり関係遺物が出土する。これら玉づくり関係の出土品を含め、東西交流の結節点と言える八日市地方遺跡出土品が、小松市埋蔵文化財センターにて収蔵展示されている。	
③	ようかいちじかたいせき 八日市地方遺跡	未指定 (史跡)	碧玉製管玉を製作した玉づくり遺跡であり、北陸最大の弥生中期の拠点集落遺跡。東西のヒト・モノ・ワザが行き交う交流の結節点と位置付けられる遺跡で、碧玉・翡翠など日本海を行き交う宝石の流通拠点でもある。遺跡の一部が「ひととものづくり科学館」の地下に保存されている。	
④	かたやまづたまつくりいせき 片山津玉造遺跡出土品	未指定 (考古資料)	古墳時代前期に小松の緑色凝灰岩で鋳形石などの腕輪や管玉、勾玉製作を行った加賀市に所在する玉づくり遺跡の出土品。玉づくり工程を示す資料が多く、生産工程を知ることができる。小松市立博物館に収蔵され、見学することができる。	
⑤	こうだやまこふんぐん せきしつ 河田山古墳群の石室	未指定 (史跡公園)	河田山古墳群には飛鳥時代に位置づけられる方墳 2 基が確認されており、そのいずれもが地元の凝灰岩を使用した切石積み横穴式石室をもつ。天井部が欠損するが、一部天井部へ移行する部分がアーチ状を呈しており、アーチ天井を持つ石室と評価されている。河田山古墳群史跡資料館内に 1 基が移築復元展示、もう 1 基は史跡公園内に移設され墳丘復元が行われる。	
⑥	こうだやまこふんぐん 河田山古墳群出土品	未指定 (考古資料)	古墳時代前期・中期と飛鳥時代に位置づけられる河田山古墳の出土資料。管玉や勾玉などの装身具をはじめ、石室古墳より出土した遺物も、河田山古墳群史跡資料館にて収蔵展示されている。	

⑦	じゅうどうやまいせき 十九堂山遺跡石塔群	未指定 (建造物)	古代白鳳期から平安期の古代寺院跡に重複する中世墓群。現在は墓地のため、石塔群の現位置が移動しているが、五輪塔や宝篋印塔など、中世に位置づけられる石塔類を複数見ることができる。地元石材を使用している。	
⑧	ほとけごぜんはか 仏 御前墓	市指定 (建造物)	『平家物語』に登場する白拍子「仏御前」の墓とされる石造物。中世のものとされ、小松市原町内に所在の仏御前の屋敷跡地内に建てられる。地元の原石と言われる。	
⑨	たきがはらせきぞうたそうとう 滝ヶ原石造多層塔	市指定 (建造物)	14世紀に建立されたと推察される高さ225 c mを測る大型の石塔。五層の屋根をもち、塔頂部を欠損する。地元滝ヶ原石を用いた最古の石塔例であり、滝ヶ原下村八幡神社境内に所在する。	
⑩	たきがはらしもむらはちまんじんじやいせき 滝ヶ原下村八幡神社遺跡	未指定 (史跡)	神社左側に2基の石窟（やぐら）が開口露出する。1基には石塔が並び、背面に梵字が刻まれる。石材は滝ヶ原産と言われ、13世紀から14世紀と推察される。	
⑪	かながそはくさんじんじやけいだいせき 観音下白山神社境内遺跡	未指定 (史跡)	神社左側に石窟（やぐら）が1基開口露出し、内部には石塔が散在する。石材は観音下石と言われ、中世に位置づけられる。	
⑫	こまつじょうほんまるやぐらだいいしがき 小松城本丸櫓台石垣	市指定 (建造物)	加賀前田家三代利常公が江戸初期に整備した小松城の石垣。割石を丁寧に面取り加工し隙間なく積み上げる切込み接ぎ工法であり、地元の凝灰岩「鶴川石」と金沢の安山岩「戸室石」などをモザイク状に組み合わせ構築する。	
⑬	こまつじょうほんまるにしがわいしがき 小松城本丸西側石垣	未指定 (建造物)	本丸櫓台石垣とともに小松城のなかで現地遺存する数少ない石垣。本丸西側の堀を護岸する石垣で、地元の鶴川石を使用される。	
⑭	うかわいしきば 鶴川石切り場	未指定 (産業遺産)	古代から近世（小松城の石垣）、そして近代建築物にまで長い時代にわたって多用されてきた角礫凝灰岩石材の産地。大規模な洞窟丁場1ヶ所は、ハニベ岩窟院として観光地となっている。	
⑮	ゆうせんじいしきば 遊泉寺石切り場	未指定 (産業遺産)	江戸期から採掘がなされた角礫凝灰岩の採掘場。第二次大戦末期には中島飛行機（現・富士重工業）が洞窟を利用して、部品を製造。総延長10 km、8000㎡に及ぶ広大な迷路空間となっている。随所に地下水が溜まり、幻想的な光景を創り出している。	

①⑥	たきがはらいしき ば 滝ヶ原石切り場	未指定 (産業遺産)	文化11年より始まり、現在も採掘が行われる緑色凝灰岩の石切り丁場。現在稼働する石切り場と旧の石切り場があり、前者では大型の電動鋸で掘削された300m以上真っ直ぐに延びる採掘坑が、後者では藩政期から明治期に人力で掘削した採掘坑が見ることができる。	
①⑦	かながそいしき ば 観音下石切り場	未指定 (産業遺産)	大正初期から始まり、現在も掘削が行われる浮石質凝灰岩の石切り丁場。特徴的な黄色を呈し、湿気に強くカビが生えにくい特徴が評価され、国会議事堂や甲子園ホテルなど、全国の近代建築に利用される。市内各所でも多く見られる石材で、石蔵をはじめとして石塀や門、庭の石造彫刻物などに使用される。	
①⑧	いしくどうぐ 石工道具	未指定 (民俗資料)	滝ヶ原地区の石切り丁場で使用された石工道具。ゲンノー、各種ツルハシ、各種チョンノと、タガネ、ノミの細工道具などがあり、里山自然学校こまつ滝ヶ原にて展示している。石材の加工技術は、今も市内26件もの石材業者や名工に受け継がれている。	
①⑨	たきがはら 滝ヶ原アーチ石橋群	市指定 (建造物)	滝ヶ原町に現存する5橋のアーチ型石橋。地元滝ヶ原石を使用した石橋で、隣接する菩提町にも1橋が残る。明治後期から昭和初期に建造されたもの。	
②⑩	ひがし 東酒造	国登録 (建造物)	観音下石を使った昭和20年代に築造された日本酒醸造所の石蔵。5棟の石蔵が連なり建っている。	
②⑪	しょううんどう 松雲堂	未指定 (産業遺産)	欧米向け輸出九谷焼、ジャパネクタニの中核を担った九谷焼窯元「松雲堂」をリニューアルした町家型文化施設。施設内には、観音下石と滝ヶ原石を組み合わせた石蔵と九谷焼の上絵付け窯（錦窯）が保存されており、昭和初期の小松町家の雰囲気を感じることができる。	
②⑫	はなさかうせきやま 花坂陶石山	未指定 (産業遺産)	1811年に本多貞吉が花坂町で陶石を発見して以降、現在に至るまで当地の陶石が再興九谷焼の主原料として用いられている。	
②⑬	くたにやきせいどじょう 九谷焼製土場 (谷口製土場ほか)	未指定 (産業遺産)	陶石から九谷焼陶土（坏土）を製作するまでの工程を行う工場。直径1mを超える大きな石車で陶石を破碎し、杵で衝いで不純物を取り除いた後、ふるいにかけ、沈殿、脱水を経て、九谷焼陶土を製造。九谷焼製土所は市内の2ヶ所のみで、昔ながらの工程を見学することができる。	

②4	れんぼうしきのぼりがま 連房式登窯 (登窯展示館)	市指定 (建造物)	花坂陶石山に近い近世から続く九谷焼の中心地である八幡に現存する唯一の九谷焼登窯。素地焼成する本焼段階の窯で、操業状態のままで保存されており、登窯構造や型おこし成形、素地焼成等の工程を展示する。付近には九谷工房が集中する。	
②5	にしきがま 錦窯 (錦窯展示館)	未指定 (産業遺産)	九谷焼の上絵付け窯で、低火度焼成窯のため、小松町家の工房内に備え付けられている。人間国宝を輩出した徳田八十吉の工房であり、現在は錦窯展示館として、初代から三代の八十吉作品を展示する。	
②6	おごや 尾小屋鉦山	未指定 (産業遺産)	江戸初期に発見された鉦山で、銅の他に金・鉛・亜鉛を産出。銅は明治から大正に生産量が増大し、日本有数の産出量を誇る。昭和46年の閉山まで地域の基幹産業として支え、そのための鉄道も敷かれた。坑道跡を整備したマインロードとそれに隣接して建設された尾小屋鉦山資料館では、鉦山の歴史や鉦山道具、そして様々な鉦物が展示される。	
②7	かなひらきんざん 金平金山	未指定 (産業遺産)	江戸後期に加賀藩財政を支えた金山。現地は立ち入りできないが、博物館が所蔵する当時の文献や金山絵巻は非常に貴重で市指定文化財。	
②8	ゆうせんじどうざん 遊泉寺銅山	未指定 (産業遺産)	尾小屋鉦山と並ぶ大規模銅山。江戸後期に発見され、明治・大正と大規模に採掘された。現地には真吹炉が2基遺存している。	
②9	なたでら 那谷寺 (本堂ほか5棟)	国重文 (建造物)	「白山之記」に白山三カ寺のひとつとされる古刹で、岩屋寺とも称される。一向一揆による戦火で荒廃したが、江戸初期、加賀前田家三代利常公が再建した。屋根には地元凝灰岩を用いた石棟が用いられ、同様の石棟構造が栗津温泉の老舗旅館「法師」にも取り入られている。	
③0	なたでらくりていえん 那谷寺庫裏庭園	国名勝 (史跡)	那谷寺再建時に造営された江戸初期の様式を持つ庭園遺構。泉水を含む主庭と書院北側の平庭および茶室「如是庵」の茶庭で構成される。園内に配される庭石や飛び石には碧玉やメノウ、水晶、オパールなどの地元産の宝石類が使用される。	
③1	まえかわすいろごがんぐん 前川水路護岸群	未指定 (風景地)	南加賀に所在する3つの潟湖、加賀三湖と梯川を繋ぐ前川水路の護岸風景。前川に面する家々には、舟の出入りが可能な石蔵が連なり、水路護岸には地元石材の石組が施される。	

構成文化財の写真一覧

①那谷・菩提・滝ヶ原碧玉産地



①滝ヶ原碧玉露頭



②八日市地方遺跡出土品（製玉資料）



③八日市地方遺跡



④片山津玉造遺跡出土品



⑤河田山古墳群の石室



⑥河田山古墳群出土品



⑦十九堂山遺跡石塔群



⑧ 仏御前墓



⑨ 滝ヶ原石造多層塔



⑩ 滝ヶ原下村八幡神社遺跡



⑪ 観音下白山神社境内遺跡



⑫ 小松城本丸櫓台石垣



⑬ 小松城本丸西側石垣



⑭ 鶴川石切丁場 (ハニベ岩窟院)



⑮ 遊泉寺石切丁場



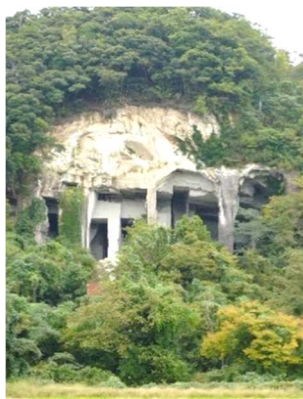
⑩滝ヶ原石切丁場



滝ヶ原石切丁場



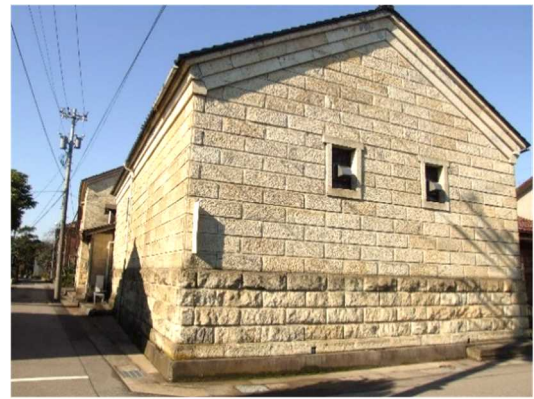
⑪観音下石切丁場



⑬滝ヶ原アーチ石橋群



⑭東酒造（石蔵）



⑮松雲堂



⑯石工道具



⑰花坂陶石山



②③九谷焼製土場（谷口製土場）



②④連房式登窯



②⑤錦窯（錦窯展示館）



②⑥尾小屋鉱山・尾小屋マインロード



②⑦金平金山



②⑧遊泉寺銅山



②⑨那谷寺（本堂ほか5棟）



⑩那谷寺庫裏庭園



⑪前川水路護岸群

